

「薬剤師の研究に必要な統計解析の基礎知識」へ参加して

信州上田医療センター 薬剤部 長能 明日美

抗がん剤の論文を読む際に、 p 値 <0.05 、ハザード比が1を挟まなければ、効果があるという意味だろうくらいの認識だったので、何か研究を行ってはいませんでした。もう少し統計を理解したい気持ちが日頃からありました。統計解析の基礎知識という題名に魅力を感じたものの、過去に外部の統計の研修会で、全く理解が進まず参加したことを後悔したことがあったため、二の足を踏んでいましたが、去年受講した方から楽しかったという感想を聞いたので、重い腰を上げて参加することにしました。

講義は、国立がん研究センター研究支援センター生物統計部の若林将史先生と小川岳人先生から、「統計の基礎知識」、「検定手法の使い分け」、「交絡調整のための多変量解析」「観察研究デザイン」について教えていただきました。1コマ60分前後と良心的なスケジュールだったため、なんとか聴くことが出来ました。

始めは、検定前にまずは実際にデータの記述を行い、データが間違っていないか、外れ値はないかなど確認することの重要性や入力ミスがないか確認するなど、当たり前ですが見落としがちな注意事項の話からだったので、いきなり拒否反応を起こさずにずっと講義を聴くことができました。

p 値は数値が低ければ低いほどいいものだと思っていましたが、治療効果を示す指標ではないことに気が付けました。生存曲線の話が聴けたので、今後の抗がん剤の論文を読む際に理解がより深まると思います。

1日の講義では統計解析をすぐに行えるようになるのは難しいですが、統計解析に使われる基本的な言葉を理解することができたので、ひとまず目標は達成しました。「ICRweb」は、臨床研究に必要な知識を提供するe-learningサイトで登録すれば無料で受講できます。今回の講義の内容も含まれており、動画の講義もあります。検定や多変量解析の内容は理解が追い付かない所もあったので、「ICRweb」を何度も見て復習しようと思います。質疑応答の場面で、統計の先生の数はなく、統計解析を個人で依頼するのは費用的にもなかなか難しいというお話がありました。臨床研究を行い、統計解析を行いたい場合は、病院で統計の先生を雇った方がいいとのことで、私には遠い話のように感じていました。ですが、日々の臨床を毎日誠実に積み重ねていき、いずれは、医療に貢献できるような研究が行えたらと思います。